

農政なら

No.469
平成29年

編集・発行
奈良県農業会議(奈良市登大路町・県庁内)
TEL 0742-22-1101(内線5623~9)
FAX 0742-24-8576



トピックス

平成29年度全国農業委員会会長代表者集会が開催 「農地利用の最適化加速に全力をあげよう」

平成29年11月30日東京都港区の「メルパルクホール」において、平成29年度全国農業委員会会長代表者集会が開催されました。全国農業会議所の主催により、全国の市町村農業委員会会長ならびに都道府県農業会議役員等約1500人が集い、本県からも20市町村から農業委員会会長ほか43名が参加しました。

冒頭、全国農業会議所の二田孝治会長は、「新たな農業委員会組織に期待されている担い手への農地利用集積、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の推進、また、それらの活動を踏まえ農業者の声の反映に全力で取り組んでいく」と挨拶しました。

開催内容は、第1部のパネル討議で「農地利用の最適化に全力をあげよう」をテーマに岩手県岩手町農委会長、茨城県茨城町農委会長と千葉県香取市農委会長、兵庫県あわじ市農委会長の

4人のパネリストが実践活動を報告しました。

全国農業会議所の伊藤嘉朗事務局長の進行のもと、新生農委会に求められる取り組みを一層強化するため何が必要か、京都府立大学の桂明宏准教授の助言を交えながら、課題や対応策を掘り下げました。

また、この集会では「新・農地を活かし、担い手を応援する全国運動」の取り組みを強化して『農地利用の最適化』を推進する申し合わせ決議「『情報提供活動』の一層の強化に関する申し合わせ決議」の2つの申し合わせ決議と、農地利用の最適化に向けた施策推進に関する要請決議が採択されました。

集会終了後には、この集會に参加した県下市町村農業委員会会長を中心に、県選出国会議員の代議士へ要請活動を行いました。



県下農業委員会の 女性委員として活動強化を目指す 「なら農業委員会女性委員の会」が研修会を開催

なら農業委員会女性委員の会（壺井和子会長）は、平成29年11月8日、奈良の伝統食伝承推進・現地視察研修会を開催し、県下農業委員会的女性委員等18名が参加しました。

昨年度に組織化された同女性委員の会は、本年度から本格的な活動に取り組んでいます。今回の研修会では、

奈良の伝統食の理解を深めるための調理実習に取り組む、地域の農村文化の伝承と、農業経営の6次産業化につなげるためのアドバイスを役立てることと、県内農業の現状について理解を促すため、「JAならけん西吉野柿選果場」を見学しました。

調理実習では、壺井会長が講師を務め、保存所としても知られる「柿の葉寿司」と、「さなぶり餅」や「半夏生餅」ともいわれ、農業となじみが深い「小麦もち」の調理に取り組みました。「柿の葉寿司」の調理に使う酢の殺菌作用などの説明を交え取り組みました。

また、選果場ではJA職員から施設の詳細な説明の後見学を行いました。同選果場は、今年度リニューアルされ新たに生まれ変わった施設で、選果風景を見て驚きの声が上がると共に、その場で様々な質問が行われていました。

また、選果場ではJA職員から施設の詳細な説明の後見学を行いました。同選果場は、今年度リニューアルされ新たに生まれ変わった施設で、選果風景を見て驚きの声が上がると共に、その場で様々な質問が行われていました。

平成29年度 「農業簿記講習会」を開催

将来農業の担い手になりうる農業研修生や新規就農者等に対し、安定的な農業経営に必要な能力を習得してもらうため、奈良県と県農業会議は「平成29年度農業簿

記講習会」を、なら食と農の魅力創造国際大学校池之内校舎で開催しました。この講習会では、基礎講座2回と実践講座（パソコン講座）を連続講座とし、参加

者の都合に合わせて受講できるようにしています。

基礎講座第1回は、12月6日に開催し、農業簿記とは何かや複式簿記の記入ルールなど複式簿記の基礎がわかる内容でした。基礎講座第2回は、8日に開催し、第1回を踏まえて決算書の作成に取り組む内容でした。

各回には、農業経営改善のため農業簿記を修得しようとする者や新規就農者及び新規就農に向けて研修をしている者、なら食と農の魅力創造国際大学校で研修を受けている者など約20名が参加し、講師の話を熱心に聞き入っていました。

実践講座（パソコン講座）は、14日に開催し、基礎講座からステップアップして農業簿記ソフトを使い、取引の入力などを行う内容でした。

平成29年度第2回 「日本農業技術検定」が 実施される

平成29年度の第2回「日本農業技術検定」が、12月9日に桜井市池之内「なら食と農の魅力創造国際大学校」の会場で実施されました。

2級は15人（うち大学校関係が14人）、3級は9人（うち大学校関係が5人）の計24人から申し込みがあり、申し込みのあった全員が受験しました。

この検定は、日本農業技術検定協会（事務局…全国農業会議所）により実施され

ているもので、1級は、農業の高度な知識・技術を習得している実践レベルで60問。

2級は、農作物の栽培管理等が可能で基本レベルで50問。

3級は、農作業の意味が理解できる入門レベルで50問のマークシート方式による学科試験となっています。

7月15日に実施された第1回では、2級5人並びに3級10人が受験し、2級1人、3級6人が合格しました。

平成29年度 第2回農業委員会業務担当者会議を開催 農地中間管理機構と連携し、 遊休農地解消に向けた取り組み強化を推進

県農業会議（増井勲会長）

は、平成29年11月22日、奈良市法蓮町「リガーレ春日野」において、平成29年度第2回農業委員会業務担当者会議を開催しました。会議には、各市町村農業委員会事務局職員などが出席しました。

今回の会議では、「利用意向調査行った遊休農地の農地中間管理機構への情報提供に係る留意事項等について」と題し、農地中間管理機構との新たな連携のあり方

等に関し農林水産省からの通知のあった内容について、県担い手農地マネジメント課の平課長補佐と堀川主任主査の2人により説明がありました。

農業委員会ではこれまで、利用状況調査により確認された遊休農地について、荒廃

状況を確認した後、再生可能

農地と判断した農地について利用意向調査を行うとともに、なら担い手・農地サポートセンター（農地中間管理機構）に対し情報提供を行ってきました。サポートセンターは、情報提供のあった農地について、借受基準に基づき借り受け可能かどうかを判断し、不適合農地についてはその旨を農業委員会に通知していました。

今回新たに農林水産省より通知された内容は、サポートセンターからこれまでも不適合農地とされた農地も含め、再度再生可能農地であるかどうかを判断し、再生可能と判断された農地をサポートセンターへ情報提供を行います。サポートセンターは情報提供を受け

た農地をリスト化して公表

すると共に、農業委員会と連携して地域による話し合いなどを行い借受希望者の掘り起こしを行うこととなりました。借受希望があった場合は、農地所有者等に対し通知並びに貸し付けについて働きかけると共に、所有者が借受希望に応じない場合は、農業委員会による「農地中間管理機構と協議することを勧告」に取り組むよう求めています。勧告を受けた農地については、固定資産税の課税強化を受けることとなります。

農業委員会は、サポートセンターとの連携をこれまでも増して強化し、遊休農地の解消に向けた取り組みを図るよう求められています。

第19回「元気です・農業 法人フェア」が実施される

第19回「元気です・農業

法人フェア」が、奈良県農業法人協会（日下志拓也会長・事務局は農業会議）の主催で11月19日に、三重県伊賀市の「上野ドライブイン」を会場として実施されました。

この取り組みは、奈良県産農産物の展示即売を通じて販売戦略につなげる他、県

下農業法人並びに県農業法人協会の活動を広く消費者にPRすることを目的としていました。

当日は、県下の農業法人10社が参加し、大和野菜など季節の野菜や新米、大和茶、柿、花、加工品など、農業法人のこだわり農産物が販売され、ドライブイ

ンを訪れた多くの人たちで賑わいました。

また同法人の賛助会員である奈良ダイハツ（株）にも協力頂き、農業法人のパンプレットなどを商用車で展示を行って頂くなど各種情報の提供や啓発活動に取り組みました。



「農へのメッセージ」



奈良市農業委員長

異 一 孝

今日農業を取り巻く環境は、農産物の価格低迷、生産資材の高騰、担い手不足に加え、獣害にも悩まされるなど厳しい状況にありま

す。また、近年は地球環境の影響なのか大型台風などで農地が被害を受ける様子がたびたび全国で報道されました。

本県においても10月の台風22号の豪雨により、広範囲の地域の農村が大きな打撃を受けました。一日も早い復興復旧を心よりお祈り申し上げます。

奈良市は都市近郊農業の有利性を生かし、米、イチゴ、キク菜等を中心に多品目の農作物を作付し、京阪神の市場に出荷されています。また、中山間地域では地域特有の冷涼な気候を生かし、食味のお米やお茶が基幹作物として生産されています。

迷、有害鳥獣被害の拡大等で生産意欲が低迷し耕作放棄地が増えています。耕作放棄地の未然防止のために新規就農者や法人による新規参入など農業の活性化に向けた積極的な支援策が緊急の課題となってきました。

農業委員会法の改正に伴い農地等の利用の最適化の推進が農業委員会の必須業務となったことに伴い、今年の7月には農業委員に加えて新たに農地利用最適化推進委員が誕生しました。今後は農業委員と農地利

用最適化推進委員が共に協力して地域農業者の代弁者として、農業相談会や意向調査を実施し政策提案や地域ビジョンづくりに取り組んでいきます。許可業務においても、法令を遵守し適正な執行を図るとともに、ホームペー

農業会議だより

農業法人1日就業体験 (農業インターンシップ) in奈良を開催します

奈良県農業会議と奈良県農業法人協会は、平成30年2月11日に、「有限会社山口農園」を会場として「農業法人1日就業体験(農業インターンシップ) in奈良」を開催します。

近年、農業も就職先の選択肢の1つとして注目され、奈良県でも農業法人等への雇用就農者が増えています。その一方で、雇用就農希望者と農業現場での就業イメージのギャップも指摘されています。この就業体験では、農業を始めようと

される方を対象に、1日就業体験を通して農業法人での就職を具体的にイメージしてもらうことにより、県内農業法人等への就業を促すとともに、農業への理解を深めてもらうものです。

募集人数は15名で、定員になり次第締め切ります。参加経費は500円。応募は農業会議ホームページより参加申込書入手し、FAX(074212418576)にて送付頂きます。

◎農業者年金加入推進事例集V.O.1 10

業者年金の加入推進で大きな成果を上げている農業委員会やJAの取り組み事例を取りまとめました。農業者への制度周知や加入者を増やすノウハウ、現場の知恵や工夫など、農業委員会組織やJAグループの先進事例には多くの参考になる点があります。

加入推進の最前線で活躍する加入推進部長をはじめ、農業委員会組織やJAグループのリーダーの方々が語る農業者年金の魅力、加入推進に対する思いを掲載。また、年金で豊かな老後を過ごす受給者が感じる年金の魅力や喜びの声も紹介しています。720円

《県農業会議関係会議日程》

- 1月5日 常設審議委員会
- 1月27日 新農業人フェア
- 2月2日 常設審議委員会
- 2月11日 農業法人1日就業体験(農業インターンシップ) in奈良
- 2月22日 奈良県農業会議理事会
- 3月2日 常設審議委員会

